

ことに、今感謝しています。閉村式が終了した後、私たちの班は、そのフェローを胴上げしましたけれども、その体が天高く舞い上がる時の感動を今でも覚えています。

結局これが、オリキャンの本義ではないでしょうか。

互いに助け合い、また互いに喜び合う、こういった行動が、大学へ入学するために行われていた受験勉強で失われ、大学生になってもまだ完全に回復していないであろうこの時に、オリキャンが行われることは、このこと

を完全に回復できることで、素晴らしいものであり、まだ偉大なるものだと思います。

まさにこのオリキャンは、友達づくりの苦手な私にとって友達をつくる最大の機会となり、また締まりのなくなるかもしれない生活をけじめのある有意義な生活にすることができ、更にこれからの大学生活において、今までの人生経験にないことを経験するかもしれない点で、生き生きしたものになったという点で、私はオリキャンのことを、「大学生活の活力剤」と呼ぶことにします。

サークル紹介

アメリカンフットボール雑感

経済学部学生 木下忠幸



アメリカンフットボール部は総員56名で、週4回学校教育学部東雲グラウンドで活動しています。週4日のしかも1日数時間の練習で、いかにチーム力を高めていくかが一番の課題になっています。学生時代にアメフトだけしかできないというのではつまらない、自由な時間を有効に活用し、学生生活を一層充実させようという、創部当時の先輩の精神を受け

継いで少ない練習日数になっているわけです。そこで綿密な練習計画と試合戦略が必然的に大事になってきます。分単位で練習と休憩を規定し、最大限に効率アップをはかります。またデスクワークが試合の勝敗の8割を占めるといわれるほどアメフトでは試合戦略が大切です。対戦校のビデオを撮り、傾向と弱点を把握し、ミーティングでそれを徹底させ、それを練習に反映させます。近年盛んにアメフト人気の高まりが叫ばれていますが、中四国地方では今一つのようです。見た目の煩雑さが親しみやすさをなくしてしまうのが一番の要因だと思います。しかし実際はいたって簡単な仕組みでできています。またわからなくても素晴らしい感動と興奮を与えてくれるのがアメフトです。私の拙い文章で一人でも多くの方がアメフトに関心を持たれ、実際に試合観戦に来られることを希望してペンを置きます。